

活動の記録

所属 理学石研究科 生物科学専攻 4番の記入日 2012年11月26日

D2 回生 学生番号 0560-23-2234 氏名 前田 真希

1. 活動の概要	2. 対応する確認指標
<p>①内容 生徒の研究活動に対して、TAとして様々なアドバイスをを行う。</p> <p>②場所 (ボランティア)</p> <p>③日時 2012年4月～8月 隔週土曜日 10:40～12:30、12月15日 発表会</p>	<p>B2</p> <p>B3</p> <p>B5</p>
<p>3. 参加するにあたっての自己目標 (活動前に記入すること)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 普段、高校生と接する機会がほとんどないため、この活動を通して高校生の実態を把握する。 ・ 様々な研究活動の内容を理解し、将来高校教師として授業中の実験や生物部を指導出来るように、ネタを増やす。 	
<p>4. 活動を通して学んだこと、自分自身が達成できたこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 何人かの生徒とは 顔見知りになり、話を聞いたり相談に答えることが出来るようになった。生徒と親しくなるためには、まず生徒の名前を覚え名前を呼ぶことが大事だと分かった。 ・ 左ききの生徒に対して、「君、左ききなんだね。」と言った際に、「好きで左ききになったんじゃない」と言われた。→ 教育相談、教育心理学等の講義で学んでいる通り、高校生はまた思春期で精神が不安定な時期であり、ものの言い方にも気をつけなければいけないと思った。相手が気分を害した場合、こちらにそのつもりがなかったことを示すために、(場合によっては) 謝ることも必要かもしれない。 ・ 生徒に自らで考え自らで解決策を見つけ出す力を付けさせたく、アドバイスをしすぎないように注意した。しかし、あまりにも放任していると、研究がほとんど進んでいないこともあり、どこまでアドバイスするのが良いのか、バランスをとるのが難しかった。 	

活動の記録

所属 理学研究科 生物科学専攻 4番の記入日 2013年4月10日

D2 回生 学生番号 0560-23-2234 氏名 前田 真希

1. 活動の概要	2. 対応する確認指標
<p>①内容 「論文講読」という授業の見学、及び、「科学英語」という授業でTAとして</p> <p>②場所 様々なアドバイスを</p> <p>③日時 2012年10月～2013年3月 隔週土曜日 8:40～12:30</p>	<p>B2</p> <p>B3</p> <p>B5</p>
<p>3. 参加するにあたっての自己目標（活動前に記入すること）</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・「論文講読」においては、高校生の実態を把握し、それに対してどのような内容の授業が成り立つのか、授業の形態や難易度などを理解し、将来の参考とする。 ・「科学英語」においては、高校生の実態把握だけでなく、適切なコミュニケーションがとれる。 <p>4. 活動を通して学んだこと、自分自身が達成できたこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私が高校生だったときと異なり、今の高校生はパワーポイントを使いながら英語で研究成果をプレゼンテーションするという、非常に難易度の高いことが出来ており、「高校生でもやれば出来る」ということを実感できた。 とにかく挑戦の機会を与えることが、教員には大切であり、それによって子どもが自ら積極的に、意欲的に学ぶことができるのだと思った。 	

活動の記録

所属 理学石研究科 生物科学専攻 4番の記入日 2013年10月22日

D3 回生 学生番号 0560-23-2234 氏名 前田 真希

1. 活動の概要	2. 対応する確認指標
<p>①内容 生徒有志とともに、米国研修旅行「サイエンス・アドベンチャー」に同行</p> <p>②場所 アメリカ</p> <p>③日時 2013年4月21日～4月29日</p>	<p>B2 B3 B4 B5</p>
<p>3. 参加するにあたっての自己目標（活動前に記入すること）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な生徒と親しみを持った態度で接することができる。 ・ 同行する先生方やガイドの方の注意をききながら、生徒への気配りや非常時の対応など、大人の社会人として行動することができる。 	
<p>4. 活動を通して学んだこと、自分自身が達成できたこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 女子生徒とは特に親しくなり、一人一人から話を聞いているうちに、「先生はとっても話しやすく、何でも相談したくなる。」と言われた。 → 生徒に親しみをもった態度で接することによって、うちとけることが出来た。 ・ 1回目のプレゼンテーションに失敗し、2回目に向けて、夜中にみんなで集まって互いにダメ出しをし合う姿を見た。 → 高校生が、「素直に元氣張る」力を発揮するのを目のあたりにして、高校生のもつ底力を感ずることが出来た。 	

活動の記録

所属 理学石研究科 生物科学専攻 4番の記入日 2014年2月17日

D3 回生 学生番号 0560-23-2234 氏名 前田 真希

1. 活動の概要	2. 対応する確認指標
<p>①内容 「土曜学習」の個別指導</p> <p>②場所</p> <p>③日時 隔週土曜日 9時～12時</p>	<p>B2</p> <p>B3</p> <p>B4</p>
<p>3. 参加するにあたっての自己目標（活動前に記入すること）</p> <ul style="list-style-type: none"> 学力のあまり高くない高校に在籍する高校生と接することによって、そのような高校生の実態を把握する。 様々な個性をもつ生徒に対して、親しみを持った態度で接することができる。 <p>4. 活動を通して学んだこと、自分自身が達成できたこと</p> <ul style="list-style-type: none"> 発達障害と思われる生徒があり、他人のことに無関心で自分の興味あることはとうとうと話すのに対して、どのように接すればよいかが難しかった。勉強会の話題になると「知らん」などと言われ拒絶され、打ちとけることが出来なかった。 あまり学力の高くない生徒でも、出来ている所をものすごく誉めることによって、打ちとけて話すことが出来るようになった。また、覚えるべき英単語をリストアップし、時限をあけて（2週間後など）テストすることによって、少しでも定着させることが出来たと思う。 自習時間中にずっと友人と私語をしている生徒に対して、毅然とした態度で注意することが難しかった。そのような生徒とも気軽に扉を合わせたりして普段から関係作りをしておくことが、必要だと思う。 勉強は出来なくても、常識にとらわれずにひらめきがあったり、人をよく観察してそれぞれの個性に応じたコミュニケーションをとることが出来るなど、賢く生きることが出来ている生徒も多かった。偏差値にこだわらずに、その子どもが持っているものを伸ばすことが出来ればよいと思う。 	